

環境計画論

選 択

開講年次：2 年次前期

科目区分：講義＋演習

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：地球環境時代の今日、自然共生建築や持続可能な都市の環境計画を行なうためには、対象地をはじめとする周辺環境の環境要素（太陽光・風・雨・雪・植生など）の振る舞いを読みとり、ヒトの安全性・健康性・快適性が得られるようにそれらをコントロールし、地域の自然環境の保全に配慮しなければならない。本講義では、建築の室内環境・屋外環境の入れ子から成るシステムの環境計画に関する基礎理論について学ぶ。

なお、本科目は建築士受験資格の取得に必要とされる指定科目（建築環境工学）である。

■**到達目標**：①建築環境・都市環境の計画に関わるバイオクライマティックデザインを理解する（斉藤）。
②広域環境における生物多様性を保全する意義と保全事例について理解を深める（矢部）。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎齊藤 雅也・矢部 和夫

■**授業計画・内容**：

I. 建築環境（斉藤）

- 第 1 回 建築環境システムの定義、入れ子構造
- 第 2 回 気候・風土を活かすバイオクライマティックデザインの事例
- 第 3 回 光環境デザイン（理論）
- 第 4 回 光環境デザイン（応用と事例）
- 第 5 回 熱環境デザイン（理論）
- 第 6 回 熱環境デザイン（応用と事例）
- 第 7 回 空気環境デザイン（理論）
- 第 8 回 空気環境デザイン（応用と事例）
- 第 9 回 音環境デザイン（理論・応用と事例）、環境要素のインテグレート

II. 屋外環境（矢部）

- 第10回 大学の森（水平分布と垂直分布、針広混交林、二次遷移と植生自然度）
- 第11回 ツリーウォッチング（植生図と代表的な樹種）
- 第12回 樹木同定実習I
- 第13回 樹木同定実習II
- 第14回 都市環境とビオトープ事業（エッジ効果、孤立化、緑地配置計画）
- 第15回 自然再生事業

■**教科書**：斉藤：設計のための建築環境学 日本建築学会編（彰国社）※建築設備計画（3年前期）でも使用する。

矢部：新版 北海道樹木図鑑 [増補版]：佐藤孝夫（著）本多政史（編）亜璃西社、新北海道の花：梅沢俊：北大図書刊行会（デザイン総合実習II（建築・環境）以降でも使用する）

■**参考文献**：図説 やさしい建築環境（学芸出版社）

シリーズ地球環境建築 専門編1・2 日本建築学会編（彰国社）

■**成績評価基準と方法**：学期末試験（50%）、授業内レポート＋授業態度（15%）、提出課題（20%）、出席（15%）を総合的に評価する。遅刻・早退は減点対象とし、2回で1回の欠席に数える。

評価方法	担当者		評価基準	評価割合 (%)
	齊藤	矢部		
学期末試験	◎	◎	論述問題70%、算術問題30%	50
授業内レポート	○			5
授業態度	○	○	積極的な姿勢を評価する。	10
提出課題		○	矢部担当回は出席カードの記入コメントを含む	20
出席	○	○	2/3以上の出席(欠格条件)、遅刻・早退は減点対象	15

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：環境を考える、エコロジカルデザイン、建築デザイン論、ランドスケープアーキテクチャ、寒冷地デザイン論、建築設備計画、景観デザイン文化論

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：